

視聴覚教育

NO. 411
発行日
27. 3. 27

発行
岡崎市AVL
編集
現職研修委員会
学習情報部

これ知ってる！？
『スクリーンショット』
スマホやPCの画面を写真に撮ること。Androidは電源ボタンと音量下げるボタンの同時押し。iPhoneは電源ボタンとホームボタンの同時押し。PCはキーボードのPrtScキー。SNSでトラブルがあった場合など、スクリーンショットがあれば後から確認できる。

この一年の歩み

学習情報指導員 村田 貴志

先日、腕時計型の情報端末発売のニュースが世間を賑わせ、日進月歩の勢いでICTが進化をしていることを実感させられた。このようなICT化が進む社会において、ICTの特長を生かした教育の質的向上は、子供たちの生きる力を育む上で大切なことである。そのためには、私たち教師のたゆまぬ研鑽が重要である。

この一年間の学習情報部の活動は、授業におけるICTの効果的な活用法の研究と、喫緊の課題である情報モラルの育成に重点を置いた。自主研修サークルTAVでは二回にわたって「タブレットPC活用講習」を開催し多くの先生が受講された。この機器を活用して授業改革を行うおうとする、先生方の熱い思いが伝わってくるようであった。また、昨年に引き続き道徳部・生徒指導部と連携して「情報モラル自主研修会」を開催した。グループ別の討議では、活発な意見交換が行われ、有意義な研修になったと実感した。子供の情報モラルの育成は、全ての教員が一致団結して取り組む課題であると考え、学校や各部会の壁を取り除いたこうした活動を、今後も大切にしていきたい。

自作教材制作の面では、今年度も六つの教材

を制作し、全ての作品が県自作視聴覚教材コンクールにおいて入選する栄誉に輝いた。これらの作品は、授業で活用できる教材を作ろうと、岡崎の先生方が自主的に集まって制作されたものである。「子供のために」という教師の思いが込められたこれらの教材が、今後各小中学校の授業で積極的に活用されることを期待したい。

また、こうして地道に研究に取り組む岡崎の先生方の姿を、他地域に大きく発信することもできた。十月に行われた葵中学校での授業研究会では、決して特別な機器を使うわけではなく、授業改革に取り組む姿勢が、參觀された先生方の大きな関心を集めた。この様な子供目線に立つて進める視聴覚・情報教育を、岡崎市全体としても更に推進していきたいと考える。

ICTでは学力は上がらない。教師が授業の工夫をしようとするから、子供の学力が上がるのだ。本年度の愛知県放送教育特別研究会で講演された、堀田博史氏の言葉である。本質を言い得た言葉である。大切なのは道具ではない。使い手の意識改革こそが、ICTによる教育的効果をもたらすのである。本年度の諸活動によって得られた成果は、ICTを活用した授業改革に取り組みようと、日々研鑽された先生方の努力の賜と言えるのではないだろうか。

II 視聴覚教育あれこれ
●平成26年度 愛知県自作視聴覚教材コンクール
○生涯学習部門

優秀賞

- 『岡崎おもちゃ病院』 ☆
- 成瀬 正和 (羽根小)
- 島田 繁直 (六西小)
- 神野 裕美 (六西小)
- 村田 貴志 (六北中)
- 水野 利明 (六名小)
- 峯澤 泰季 (南中)
- 鈴木 優 (豊富小)

○学校教育部門 (二)ビデオ教材

優秀賞

- 『伝統をうけつぐ〜味岡人形のねりがしら〜』 ☆
- 吉見 明 (羽根小)
- 名倉 嘉章 (羽根小)
- 石川由里香 (常磐小)
- 鈴木 広樹 (額田中)
- 中根 良輔 (翔南中)
- 井上 清美 (夏山小)

優良賞

- 『おかざきの狛犬づくり〜手掘りにこめた思い〜』 ☆
- 赤堀 大知 (矢南小)
- 佐渡 英彰 (矢北小)
- 高瀬 玲子 (愛宕小)
- 『岡崎の花こう岩〜その特徴にせまる〜』 ☆
- 大塚 真悟 (梅園小)
- 杉山 康子 (生平小)
- 河上 翔太 (梅園小)
- 鈴木 一史 (竜海中)
- 丸尾 健太 (三島小)
- 尾山 和昭 (矢南小)
- 服部 将也 (梅園小)
- 山口 秀樹 (根石小)
- 佐藤 真希 (額田中)

○学校教育部門 (三)コンピュータソフトウェア教材

優良賞

- 『郷土に残る古墳〜岡崎市の古墳〜』 ☆
- 太田 尚志 (北中)
- 三輪 恭之 (六美中)
- 山崎 彰伯 (城北中)
- 『おかざき音事典』 ☆
- 長谷川誉幸 (美川中)
- 小田 哲也 (新香山中)
- 森 綾子 (下山小)
- 近藤 雄一 (東海中)
- 加藤 光 (竜美丘小)
- 内田 雅之 (羽根小)
- 坂田 健一 (岡崎小)
- 岩川 皓司 (葵中)
- 加藤 明 (小豆坂小)

努力賞

- 『タブレット教材「化石ってなあに？」』

☆印は、「おかざき映像教材研究会」が制作した教材です

武田 泰実 (竜南中)

II 実践報告 II

自分で選択判断して作成する思い出アルバム

大門小学校 西片 茂雄

年度末が近づいている。そこで今回は一年間の思い出アルバム作りの授業を計画した。使用するのは「キューブきつず4」。このソフトを活用して、子供たちが考えて「自分の思い出アルバムづくり」に挑戦することができるよう学習環境を整えた。

まず初めに、デジタルカメラの使用時における知識とマナーについて指導した。撮影した画像を消去する操作はもちろん、情報モラルとして友達が写っている画像は勝手に使用せずに許可を得る必要性もおさえた。積極的に活動しているためか、デジタルカメラの操作に関しては特につまづくこともなく、撮影した画像をパソコンに取り入れることまで自分たちだけでやれるようになっていった。

次に、今まで撮影してきた写真を「なんでも」フォルダに保存し、どの子も自由に見ることができる環境を整えた。多くの写真を取り扱うことで、必要な情報を収集選択する力もつけさせたいと考えたからである。子供たちは作業に慣れてくると「キューブきつず4」の多様な字体やスタンプなどを駆使し個性あるページを作るようになった。また、「それどうやって作ったの」と子供どうしで学び合う場面も見られ、授業の中で自然に関わり合いが生まれるようになった。作品完成後に行った観賞会では、子供たちがそれぞれの思い出の場面を振り返ることができ、とても喜んでくれている様子だった。

今後様々な活動のまとめに「キューブきつず4」を活用し、子供たちの情報活用力を伸ばしていきたい。



II レッツ・トライ II

生徒が関わり合えるタブレットPCの活用

授業の中で、生徒が発表する際に、説明が上手くできなかったり、言葉だけでは考えを的確に伝えられなかったりする場合がある。そこで、子供たちのコミュニケーション活動を促すツールとして、タブレットPCの利用を考えた。

理科の授業では、カメラ機能を用いてノートに描いた図を生徒に撮影させたり、Excelを用いてグラフを作らせたりした。それらを教員が集約し、各自がもっているタブレットPCに表示することによって、生徒全員でデータを共有できるようにした。各班のデータがリアルタイムで見えると、生徒たちの理解度が増し、物質の割合が比例の関係にあることを容易に見つけることができた。そして、意見を発表する場面では、自分のデータを他の班のタブレットPCに映し出し、注目する点にマーキングをすることで、他の生徒に分かりやすく説明することができた。また、タブレットPCを利用し、保存しておいた前時の授業の様子やデータを見せることで、容易にそれまでの学習を振り返ることができるようになった。次時の導入でも有効に活用することができた。

タブレットPCを活用すれば、授業と生徒、生徒どうし、生徒と教員など多様な双方向性を持ってそれぞれを結び付ける授業が、デザインしやすくなるように感じる。

今後、この機器を積極的に活用し、更なる可能性を探っていききたい。

(矢作中学校 学習情報主任 永田祥晃)



ライターデビュー

市内の小中学校が数々のコンテストで入賞したり、助成を受けたりしています。詳細は次の通りです。

●第17回キューブ活用コンテスト

【グランプリ】

『バードウォチングとワタをそだてて みんなでつくったよ』 生平小 二年

【活用賞】

『新聞をつくろう』

緑丘小学校 四年一組・六年二組

●第4回コロナ実践コンテスト

【特別賞】

『新しい一ねんせいにおしえてあげよう』 生平小一年

●第8回アジア国際子ども映画祭

【奨励賞】

『変わっていく生平』 生平小六年

●第14回ちゅうでん教育振興助成

岩津小「ストップ！ザ・スマホ！？」

地域ぐるみの情報モラル教育」
(おかげさき情報モラル研究会)

【編集後記】

数多くの実践事例や様々な情報をお寄せいただき、ありがとうございます。今年度からタブレットPCが本格的に導入されました。各中学校の、タブレットPCを活用した実践報告・レッツトライは、多くの先生方の参考になったことと思います。来年度も月報「視覚教育」のいっそう充実を図ってまいりますので、よろしくお願ひします。

(広報部)